

学 年	教科等	単元名	日 時
第 4 学年	社会科	地震からくらしを守る	令和 7 年 2 月 7 日 (金)

1 本時の目標

学習したこと等を基に、「南海トラフ巨大地震」に対する防災・減災のためのよりよい取組について考え、表現することができる。

2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1 本時の学習について確認する。 ○ 本時の話合いのテーマ 「南海トラフ巨大地震」から宮崎県の多くの人々の命やくらしを守るためには、どの取組の数を増やした方がよいか。 ①防災訓練 ②道路の整備 ③水道の整備 ○ 自分の考えと根拠となる資料 2 グループでテーマについて話し合う。（★） ○ 自分の考えとその理由（例） ① 地震のときは、たくさんの人が協力するので、誰が何をするかを何度も確認しておいた方がよいから。 等 ② 道路が壊れると、避難ができなくなったり、救助が遅れたりするから。 等 ③ 水道管が壊れて水が使えなくなると、生活が困るから。 等 3 全体で取組の懸念点を見いだす。 ○ グループで話し合ったこと ○ 取組の懸念点（例） ① 防災訓練の回数を増やしても、参加する人が増えるとは限らない。 等 ② 全ての道路を整備する前に、地震が起こるかもしれない。 等 ③ 全ての水道管を地震に強いものにするには、時間やお金がかかる。 等 4 グループで懸念点を解消する方法について話し合う。 ○ 懸念点の解消方法（例） ① 防災訓練に参加する人が増えるように、もっと宣传する。 等 ② 道路が壊れたときのために、別の避難ルートを考えておく。 等 ③ 断水する可能性を考えて、水を備蓄しておく。 等 5 本時の学習をふりかえる。（★） ○ 考えや理由の変容とその要因（例） ・ 水道の整備の数を増やすことが大事だと思っていたが、〇〇さんの意見で、自分たちで備えておくことも大事だと気付いたので、その考えを追加したい。 等 ○ ふりかえりの伝え合い	○ 「防災訓練」、「道路の整備」、「水道の整備」のそれぞれの考えを選択している人数をホワイトボードで示すことで、異なる考えの理由を聞いてみたいという思いをもつことができるようにする。 ○ 1つのグループに「防災訓練」、「道路の整備」、「水道の整備」の考えの子どもができるだけ偏りなくいるように編成することで、多様な考えにふれることができるようにする。 ○ よりよい考えを導くという話合いの目的を確認することで、宮崎県の多くの人々の命やくらしを守るためのよりよい取組について話し合おうという思いをもつことができるようにする。 ○ 「防災訓練、道路の整備、水道の整備の取組の数を増やせば安心できるかな。」と問うことで、それぞれの取組についての懸念点を見いだすことができるようにする。 ○ 懸念点の解消方法について話し合う時間を設定することで、公助に頼るだけでなく、一人一人の防災意識を高めることが必要であることに気付くことができるようにする。 ○ 話合いが停滞しているグループには、「どれも市役所や消防署の人がいなければできないことかな。」と問うことで、公助に頼らない考えを見いだすことができるようにする。 ○ 話合い後の考えや理由の変容とその要因を仲間と伝え合い、仲間の見方・考え方にふれる場を設けることで、自助の大切さに気づき、自分の考えを見つめ直すことができるようにする。

3 本時の評価規準

学習したことや生活経験等を基に、「南海トラフ巨大地震」から宮崎県の多くの人々の命や暮らしを守るためのよりよい取組について考え、根拠を示しながら話し合ったり、自分の考えを記述したりしている。

(思考・判断・表現)【発言分析・記述分析】

4 板書 等

2月7日(金)地震から暮らしを守る

単元の学習問題
「南海トラフ巨大地震」から命や暮らしを守るためには、どうすればよいのだろう。

話合いのテーマ
「南海トラフ巨大地震」から宮崎県の多くの人々の命や暮らしを守るためには、どの取組の数を増やした方がよいのか。

理由	心配	心配をへらすために
① 防災訓練 ・おぼえがくわいできない。 ・だれが何をやるかわからない。 ・何度もやらないと覚えられない。	・みんなが参加するの？ ・物資が届けられないかも。	・いろいろなルートを決めておく。 ・自分の家族や親せきと連絡。
② 道路の整備 ・物資を運べない。 ・みんながくわいできない。 ・救助が遅れる。 ・役所の人が行かない。	・整備するのにお金と時間がかかる。	・ゆうせんしんいを 決めて工事する。 ・びんろをためておく。
③ 水道の整備 ・断水すると水が使えない。 ・下水道が壊れるとトイレが使えない。 ・宮崎市の強い地震	・宮崎市の水道管は古くて壊れやすい。 ・道路が通れなくなる。	・水道料金を上げる。 ・水を事前ににんびしておく。 ・水をためておく。

自分のできることを

5 指導講評

宮崎大学 藤本 将人 准教授

- 子どもは立場が行ったり来たりしていた。それこそが、社会とのかかわり方を改めて考えるという訓練になっている。その際に使用した学習プリントは、子どもの思考を整理するために有効であったと思われる。
- 本時は、「様々な取組が完了する前に地震が起こったらどうするか。」と問うことで、子どもたちをさらに悩ませていた。悩んだことを授業のなかで着地させるのか、次の時間に考えさせるのかは、今後の課題として考える必要がある。

宮崎大学 吉村 功太郎 教授

- 葛藤は個人のなかで生じるものであるため、資料を提示しただけで葛藤する子どももいれば、話合いのなかで葛藤が生まれる子どももいるであろう。それを踏まえて、どのような社会的事象を提示するか考える必要がある。
- 話合いをする際に、自由に発言させて、それを教師の力量で収束させていく形がよいか、活動内容や時間の見通しをもたせたいうで活動させる形がよいか、子どもの実態も踏まえて考える必要がある。

宮崎県 教育庁 義務教育課 島崎 博英 指導主事

- 子どもが学習問題を自分事として捉えられるかどうかはとても大事なことである。自分1人で解決できない学習問題だからこそ、子どもが葛藤し、仲間と話し合いたいという思いをもつことができるのではない。
- 本時は、次時で「自分たちにできること」を選択・判断するための選択肢を増やしたり、深めたりするための話合いであった。選択肢を増やせたかどうかをふりかえるために、授業を構成するなかで、意見交換や議論の時間配分を考える必要がある。
- ふりかえりは、学習指導要領でも必要だと言われている。いつ、どのタイミングでふりかえりをするのかを考える必要がある。

6 考察

【研究内容1：社会へのかかわり方についての話合いを深めるための手立て】

① 葛藤を生じさせる社会的事象の提示と発問

過去に他県で発生した地震でどのような被害があったかという資料を提示し、「宮崎県の地震対策は十分なのか。」と発問した。そうすることで、宮崎県の防災・減災の取組で増やした方がよいことは何かと葛藤する姿が見られた。そのため、提示した資料や発問は有効であったと思われる。一方で、話合いの終盤において、自助に結び付く発言がなかなか出なかったため、子どもの意識を公助から自助へ向けるための資料が必要であったと考える。

② 自分の考えを見つめ直すふりかえりの時間の設定

「話し合った後の自分の考え」を記述する時間を設定した。そうすることで、「水道の整備を増やした方がよい」と考えていた子どもが、「断水の備えは自分でできるけれど、道路が壊れたら自分では何もできない。だから、道路の整備を増やした方がよい」と、自助の視点を取り入れて考えを変容させる姿が見られた。これは自分の考えを見つめ直した姿であると考えられる。一方で、ふりかえりを伝え合う時間が確保できなかったため、授業構成において時間配分をしっかりと行う必要があったと考える。